

vol.
05



しんどさんこばなし

一步先の、新どさんこを
新どさんこ研究所
山岸所長が訪れる

より強く、より高く、より熱く。
伝えたいのは
生き物の素晴らしさ
命と未来を見つめる



新どさんこ #05 坂東元さん

旭川市旭山動物園園長。旭川市生まれ。酪農学園大学獣医学修士課程修了後、1986年獣医師 飼育展示係として同園へ。動物本来の能力や習性を見せる「行動展示」を考案、実現し、同園を日本屈指の人気動物園に育てあげた。2009年より現職。ホルネオ 保全トラストジャパン理事。

●旭川市旭山動物園●
旭川市東旭川町倉沼11-18 電話・0166-36-1104
夏期営業時間・9時30分〜17時15分(入園は16時まで)
※10月16日以降は営業時間変更 定休日:期間中無休 P/700台

「動物はこんなにすごい！」
本来の自然な姿を展示

プールに飛び込むホッキョクグマや水中を飛ぶように泳ぐペンギン、円柱水槽を上へ下へと自在に通る抜けるアザラシ。旭山動物園の生き生きとした動物たちの様子は、現地で、映像で、誰もが一度は目にすることがあるだろう。動物の能力や習性を引き出し、本来の自然な姿を見せるこの展示方法を考案・実現したのが獣医師で現園長の坂東元さんだ。

入園は1986年。一時は閉園の危機に陥り到底を経験。「つまらない」という来園者の声も耳にした。「動物と関わっている僕らには、毎日発見や感動がある。こんなにすごいやつらなのに、なんとかできないか。命を預かる責任感と動物への思いが起爆剤となった。原点は「今いる動物たちをどう幸せにするか」という。「狭い施設の中で生きる彼らに、動物らしい感性を育てられる環境を作ってあげたい」。老朽化した施設の建て替えを契機に、斬新なアイデアを次々に実現。画期的な展示は評判を呼び、気がつけば日本有数の人気動物園になっていた。

子供たちに手渡す未来

年間300万人が訪れる人気スポットとして注目を浴びたその頃を、坂東さんは「バランスが崩れてしまった。一番辛い時期でした」と振り返る。本来なら動物園は、遠足をしたり写生をしたりと、地元の子供たちが動物を身近に感じながら成長できる場所。観光客が多すぎて、それがかなわなくなっていたのだ。それを成功と呼べないと危機感を抱いたという。

チームも落ち着いた今、「これからが組み立て直すチャンスと身を引き締める。足を運んでくださった方にあるままの生き物の素晴らしさを「すごいでしょ、これ！」と伝えたい。世界中の動物たちが直面する問題を考えるきっかけになれば、と願っている。次の世代に動物と共にある未来を残す。「そうやってつないでいくのが命ですよ」と笑った。

インタビュー

新どさんこ研究所 所長
山岸 浩之
Hiroyuki Yamagishi

2014年北海道博報堂入社。
コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。



北海道民の80%は環境のためにマイバッグやエコバッグを使用。
北海道民のエネルギー・環境意識はこちら
<http://shindoken.com>

新ど研

新どさんこ研究所